

地域の力を活かし、東陽中のみができる教育を実践

山河在り

東陽中学校だより
平成二十九年年度第一号

平成29年6月13日
文責 米村

東陽中は進化中です

今年の梅雨入り後一週間が経過しました。五月が全国的に記録的な小雨で、そんな年の夏は暑く、干ばつの心配もあると予報されていました。確かに、梅雨入りしたとは言え、雨も少なく、湿度も高くない気候が多いように感じます。

今年の中合同運動会は、四年目にして初めて春に開催しました。赤団の三連覇を阻止した白団の優勝。団長や生徒会長の感動を呼ぶ姿などに、参観頂いた地域の方からも高い評価を頂くに至りました。大勢の方々に見守られて、成功裏に終わった運動会。天気にも恵まれた五月に実施できたことでの利点を検証し、定着の方向を目指したいと考えます。



運動会では数々の感動的な場面が生まれました。最も近い場所で見ることができた白団団長の涙が忘れられません。

校訓

自主 剛健 奉仕

運動会での子どもたちの活躍をねぎらう意味も込めて、今年も博物館見学に行くことができました。五月二十六日、八代市立博物館で開催された「山心学展」を全校生徒と東陽小六年生で見学しました。

学芸係長の鳥津亮二様による解説で、心算の作品のすばらしさをしっかりと堪能することができました。昨年の博物館見学では、東陽ゆかりの歴史資料から東陽人としての誇りと自信を得ることができました。今年も国宝級の絵画に心が揺さぶられました。バス等の支援を頂いた東陽支所やまちづくり協議会に感謝申し上げます。

本年度の東陽中学校全校生徒は三十五人です。数では八代管内で三番目に少ない学校です。少人数の強みを活かして、東陽中だからこそできる取組、東陽中にしかできない教育を実践していきます。そのためには東陽という地域の力が不可欠です。今後も保護者・地域の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

鳥津さんに感謝の言葉を伝えました。鳥津さんの「東陽愛」は学芸員初仕事に起因しているようです。



10月26日(木)熊本県情報教育研究大会in東陽小・中学校 ～小中一貫・連携教育も進めます～

東陽中学校と東陽小学校では小中一貫・連携教育を東陽小学校開校時より推進してきました。その結果、校舎が隣接していない学校間の連携度は八代市の中でもトップクラスとなり、その成果は随所に現れています。

特に今年度は、熊本県小・中学校情報教育研究大会八代大会を十月二十六日木曜午後より開催します。小学校から藤井先生・高木先生、中学校からは松原先生が公開授業を提案し、授業研究会や講演会を予定しています。テーマは「ネットワーク社会を豊かに生きる体系的な情報モラル教育の在り方」ICT機器を効果的に活用した授業づくりです。県下各地からの参加者を増やしていきたくところです。保護者・地域の皆様にもご案内するところです。

また、文化の祭典で地域の方々に披露してきた「石匠太鼓」「雨乞い太鼓」「棒踊り」を、今年も継承していきます。総合的な学習の時間に小学生と中学生と一緒に練習し、伝統文化の担い手としての自覚を育む貴重な体験です。

互いの卒業式に参加する取組も中学生となる不安を解消できたり、生徒会役員の自覚を高めることができるなど、子どもたちにも好評のようです。先生たちも互いの授業を公開し、研究会を開催することで授業の技術を高め、学力向上を実現しています。保護者や地域の方にご覧いただく授業参観時には、次のテーマも意識したうえでご覧いただければと思います。

平成29年度共通テーマ

「自他の学びのために主体的に活動する子どもの育成」

中学校サブテーマ

～学びを深める伝え合いをめざして～



平成28年度、東陽町文化の祭典で坂より上棒踊りを披露している様子

裏面もご覧ください

～ 心技体 ～ 鍛錬の成果を全て出し切れ

最近、二人の中学生の大活躍が話題となつています。一人は5月にドイツで開催された第五十四回世界卓球選手権において、リロデジャネイロ五輪銅メダリスト水谷準選手に勝つなどし、十三歳でベスト8入りを達成。史上初の記録を打ち立てた、張本智和選手。世界に衝撃を放ち、東京オリンピックでのメダル獲得が期待されます。

もう一人は将棋の最年少プロ棋士、藤井聡太四段。十四歳二か月でプロデビューした藤井四段は、デビュー戦より負けなしの二十五連勝中。公式戦の連勝記録二十八を超える期待がかかり注目度も高まっています。

そんな二人の中学生に共通して感じることは、中学生とは思えない堂々とした戦いぶり。落ち着いて見える姿。少しのピンチでも慌てることなく、自分優位に持ち込むテクニクなどがあります。

若いとはいえ、厳しい練習で身に着けた体力や技術。数々の失敗から学んだ自らの心をコントロールする力。まさに、「心技体」のバランスがこの年齢にして備わっているのでしょうか。対戦相手が話題の中学生であるという事実も戦う者にとつて無意識のうちにも意識してしまうのでしょうか。

東陽中学校の部活動に目を向けてみましょう。今年はバレー部・バドミントン部ともに予選を勝ち上がり、県大会出場を果たしました。バドミントン部においては十年以上のブランクを超えて勝ち取った団体戦の栄光です。ハンドボール部はギリギリの部員数で県選手権大会に出場、対外試合での得点を記録することができました。

県大会で感じたこれまでに味わえなかったプレッシャー。正念場で途絶えてしまった気力と体力。ようやく実現

した場で得た課題の数々をどうにか克服して、中体連を迎えましょう。これまで積み重ねた努力が自信となって最高の結果となるよう、仲間を信じて最後まで悔いの残らないプレーを期待しています。特に3年生のみなさんは思い切つて試合に臨んでください。集大成となるハレの舞台です。



部活動振興会会長を前に集結した東陽中部活動生の勇士。運動会の部活動紹介では、東陽の観衆の前で堂々の行進を行いました。

平成29年度八代中体連総体の日程が決定!!

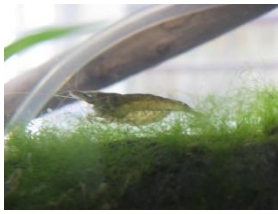
- バレーボール… 第五中学校会場 6月24日・25日
- バドミントン… 八代白百合学園会場 6月24日・25日
- ハンドボール… 八代大会なし 県大会 7月22日・23日

豊かな東陽の自然を校長室に水槽の川魚とエビ

東陽中学校が河俣川に囲まれるような土地に建てられている様子は、校長室に掲示してある一九九一年撮影の航空写真からも理解できます。その清流河俣川は、雨がずっと水位が上昇し川幅いっぱいには激流が音を立てます。晴天が続くと河原が出現し、川の流れから取り残された場所に水がたまり、逃げ遅れた生き物たちが命をつないでいます。

その様な生き物たちを校長室に設置した大小二つの水槽で飼育しています。大きい水槽にはカワムツとおもわれる稚魚が十数匹泳ぎ回っています。二センチにも満たないサイズから少し成長

し三センチほどになった個体も確認できます。成魚になると特にオスが鮮やかな色彩を身につけるので楽しみです。小さい水槽には魚が大きくなるとその餌として食べられてしまうミナミヌマエビを七匹飼育しています。こちらは増殖の期待がかかります。武道場前を通る生徒の中には、観察を継続している人もいてうれしく思います。興味のある方は校長室をお訪ね下さい。成長を続けている姿を間近にご覧いただけます。



東陽中学校ホームページもご覧ください!

すでにご活用いただいている方も多数いらっしゃるようで、東陽中学校のホームページ閲覧数が驚異的な数字を記録しています。六月十一日の時点で7万8千を超えるカウンント数は八代市内の大規模校でも4万を超えたくらい。学校規模からしても考えられないような数値です。毎日の給食をアップするなど日々更新していることも起因していると思います。

利用にあたり、下記のアドレスを直接入力されるのが面倒な方は、「八代市立東陽中学校熊本県教育情報システム」で検索をかけるとホームページにたどり着きます。



<http://jh.higo.ed.jp/toyojhs/>

最後までご覧頂きありがとうございました。